

農作物生育概況

令和4年7月25日現在

<作物>

水 稲：DVIによる生育予測では、7月27日の時点でコシヒカリ、標高300m、5月20日田植えで「2.6日の進み」となっている。今後も高温で推移することから、8月上旬からコシヒカリの出穂が始まると推測される。

また、7月中旬以降、降雨が断続的に続いていることから、病虫害防除所より7月20日付けで注意報が発令されており、防除の啓発を行っている。

小 麦：収穫作業は6月末から開始された。6月27日の梅雨明け後、7月上旬まで高温で推移したことから成熟期は予想より早まった。またこの間、降雨が少なかったこともあり、収穫作業は順調に進んだ。

<果 樹>

りんご：果実肥大は平年並みからやや小さい傾向。摘果が遅れている園地もあるが、生育は概ね順調。病虫害については、ハダニ類の発生は一部あるものの防除が入っていることもあり、大きな影響はない。防除がかかりにくい部分では黒星病の発生が散見される。「シナノリップ」は8月中旬から収穫が始まる予定。

ぶどう：「シャインマスカット」が豊作基調で摘粒作業が遅れ気味である。袋掛けの遅れに伴い、ボルドー散布ができない園地では散布薬剤を変更して薬剤防除を実施している。ぶどう全般では、新梢の登熟が平年より早く、7月中旬ごろから確認されている。病虫害では、山際の園地を中心にコガネムシ類の食害がみられる。

核果類：中野市では、7月末から「白鳳」「あかつき」の収穫を見込んでいる。小玉傾向だが味は良い。

<野 菜>

アスパラガス：半促成作型長期どり作型では夏芽収穫が本格化している。梅雨明け後の高温の影響で異常茎(空洞、割れ等)の発生がみられる。

きゅうり：露地作型では7月上旬から中旬にかけて収穫がピークとなった。6月中旬までの低温で下位節間が短く、梅雨明け後の高温で、先端がヤケたところもあった。病害は一部べと病や炭そ病等の発生見られる。

<花 き>

トルコギキョウ：季咲き作型では切花作業中。立枯病やその他病虫害被害の影響は平年並みの様子。品種の組み合わせにより、お盆(物日)需要にも合わせている。連日の降雨・曇天後に日射が強くなり、ブラッシングの発生が懸念されるため遮光資材等で適宜遮光するよう指導を行っている。

キク・アスター：生育はやや遅れているが、お盆直前には出荷可能と思われる。害虫の発生によ

る品質への影響を抑えるため、発生が確認されたら防除を行うよう指導。病害の発生は少ない。